

【ポスターセッション】

自施設の「虐待予防につながる仕組みおよび活動の状況」を明確化することの意義
—介護老人福祉施設における虐待防止研修実施後の調査票調査結果の分析・考察—

○ 聖隷クリストファー大学 氏名 落合克能 (007083)

キーワード3つ：介護老人福祉施設，虐待防止，研修プログラム

1. 研究目的

高齢者施設における「養介護施設従事者等による虐待（高齢者虐待防止法）」は、近年、増加の一途を辿っており、2015年度に行政が養介護施設従事者等による虐待と認定した事件だけでも全国で402件発生している。

本研究は、筆者が関わっている“法人、施設の枠を超え、高齢者施設関係者が学び合う研究会”の特定メンバーで考案した「高齢者施設における“虐待抑止要因構造化および不適切ケアの再認識”による虐待予防プログラム」の効果検証とプログラム内容および実施方法の改善等を目的として実施した研究の一部であり、当該プログラムのうち「自施設の“虐待予防につながる仕組みおよび活動の状況”を（構造的に）明確化するプログラム」受講者に対して研修終了後に実施した調査票調査の結果を分析考察し、当該プログラムの有用性等に関する示唆を得ることを目的としている。

2. 研究の視点および方法

本研究は、2018年度聖隷クリストファー大学地域連携事業研究費を受け、2018年10月～2019年2月に介護老人福祉施設3施設（静岡県西部）で行った虐待予防研修（自施設で実施している様々な取り組みが虐待抑止につながっている状況を構造的に捉えるプログラム）後に、参加者に対して実施した調査票調査の結果を分析、考察したものである。研修施設および参加者等に関しては、表1の通りである。

表1 調査票調査実施施設と対象者

施設名	研修（調査）実施時期	研修参加介護職員の属性	研修参加者数
A施設	2018年10月下旬	介護職員（ユニットリーダー）	12人
B施設	2018年11月下旬	介護職員（様々な立場が混在）	15人
C施設	2019年2月中旬	介護職員（ユニットリーダー）	11人

3. 倫理的配慮

本研究実施にあたり、調査協力者には、事前に①研究の目的・意義、②調査への協力は本人の自由意志であること、③収集したデータは、個人が特定されないよう適切に処理すること等について、口頭および研究協力依頼文書により説明を行った。本研究は聖隷クリストファー大学倫理審査による承認（承認番号：18033）を受けて実施した。

4. 研究結果

本調査票調査の各施設における有効回答数は、A施設 100% (12人)、B施設 93.3% (14人)、C施設 100% (11人)であった。調査結果は、図1の通りであり、①「研修の満足度」は、C施設介護職員の100%が満足と回答、②「自施設の虐待抑止要素を構造的に把握することの必要性を感じたかどうか」に関しては、B施設、C施設介護職員の70%超が「感じた」と回答、③「研修を受講したことにより意識の変化があったかどうか」に関しては、C施設介護職員の90.9%が「変化があった」と回答、④虐待予防効果の実に関しては、C施設介護職員の63.6%が「効果があると感じた」と回答していた。

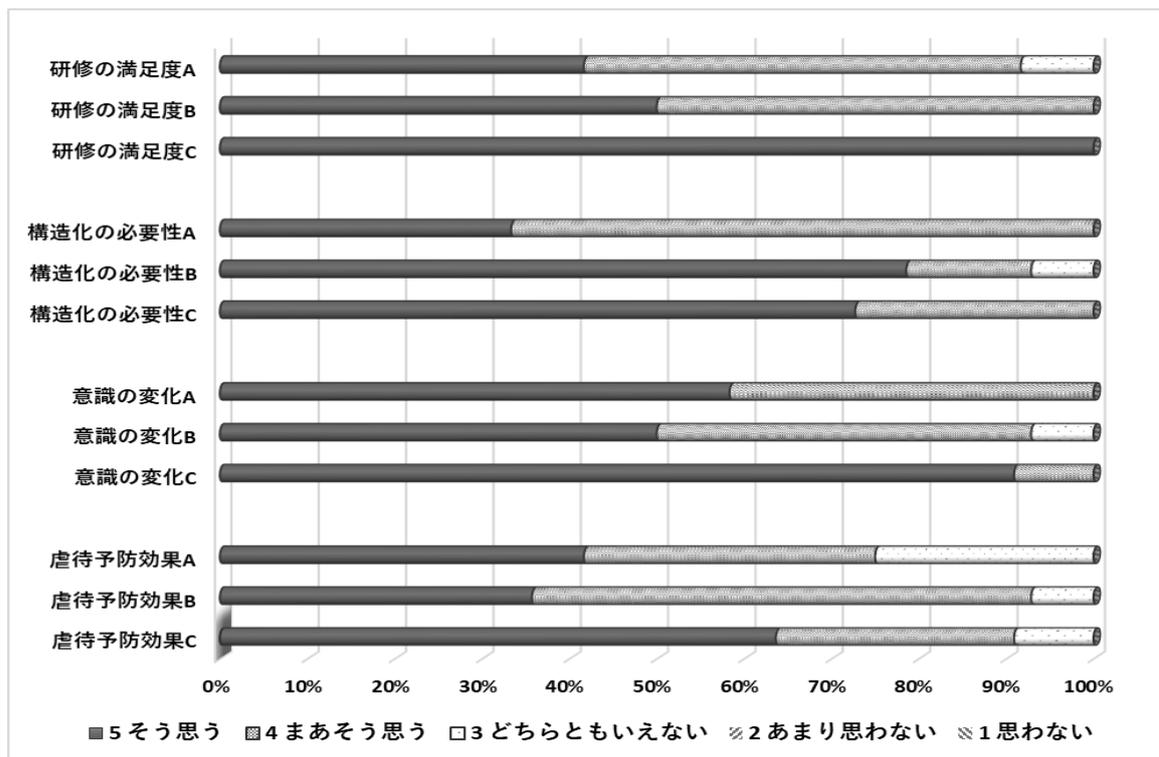


図1 各施設における虐待予防プログラム実施後調査の結果
(A施設：N=12 B施設：N=14 C施設：N=11)

5. 考察

本研究では、自施設で既に実施している“虐待予防につながる仕組みおよび活動の状況”を(構造的に)明確化することが、虐待予防のために必要となる「虐待予防に関する意識の変化」、「虐待予防に関するモチベーションの喚起」、「虐待予防のために取り組むべきこと(現状の脆弱性)への気づき」に有用なプロセスであるという示唆を得ることができた。

ただし、本研究では、①3回の研修プログラム参加者の属性、グループ構成(属性)に差異があったこと、②プログラムの実施方法に関して2回目以降に改善がなされたこと、③プログラム実施前後の意識の変化を比較検証する調査方法をとっていないことなどから、プログラムの効果検証としての妥当性、信頼性は不十分であった。今後、本研究等を通して完成されたプログラムおよび実施方法により、参加者条件を統制して研修を実施し、研修受講前後の意識変化を測定することにより、プログラムの効果検証を行う必要がある。